ニュース寸評

国勢調査、ということがあった。

釜を国勢調査と結びつけた新聞記事は、十月一日の朝日、三日の読売に出ていた。それについては特別にいうことはない。

しかし、総理府統計局というエライお役所のくばった「国勢調査についてのおねがい」を読んでいると、ふっと考えさせられる。

そこには、次の通り書いてあるのだ。

国勢調査は、わが国の人口の実態をしらべて政治や行政の基礎資料をつくるために、大正九年以来五年ごとに行われてきた国のもっとも基本的な統計調査です。

ハアさようでございますか、とますは礼儀正しく返事をしてからの話だが、この「基本的な統計調査」は、結局おれたちに対してどんな具合に結果が返ってくるのだろう。

資料は資料であって、特に何かの結果、方針などが生れなくても、調べてあるというだけで意味を持っている――こんなふうにたしなめられるかも知れない。それもそうだ。

しかし、調査にあらわれた釜のアオカンの人数は八百九十人、動かせない一つの事実をはっきりと示している。一つの事実とは何のことか、実はもうあんまり何べんもなので字に書きたくないけれど、そして書かなくてもわかってもらえるだろうけれど、それはフケイキ、仕事がない、ということだ。

「政治や行政」は、国勢調査の調査票をとりまとめ、コンピューターにかけ、分析とやらもして「基礎資料」にするのだろうが、釜にはそんなマドロッコシイことは間に合わない。

八月の盆休みからこっち、ごくわずかだが

求人がふえてきたのは事実だが、まだまだ少なすぎる。新聞が釜の国勢調査を記事にしたのは、アオカンという特異な生活に目を向けたからだが、秋風の立った十月はじめ、アオカンしたい者はいない。

ところで話は飛んで、滋賀県の方で、せっかくみのりかけた稲を農林省かなんかの命令で青刈りさせられたそうだ。九月はじめごろか、新聞に一度じゃなく出ていた。

これ、一体どういうことなのかね。

青刈りってのはコメができないうちに稲を刈ることで、つまり、百姓の労力も肥料もできるはずのコメも、全部ムダにするわけ。

役所ってのはわからないよね、何を考えてるのか、させるのか。

石油ショック以来、節約ムードがすっかり行きわたって、それが釜の景気にも関係してるけど、その半面ではこんな無駄をわざわざ命令してまでやらせる。

しかも、だ。

じゃあコメは余って困ってるのかというとそうじゃない。足らないのだ。かりに日本じゃ足りてるとしてもへあくまでも仮定、実際は足らない〉、世界全体を見わたせば、食いものがなくて餓死してるところもある。何年かもには地球に食糧不足がやってくるという学者の研究もある。

なのに、なのに、稲は青刈りさせるばかりじゃなくて、田んぼを遊ばせとけコメは作るなども命令する。いなかの現場へ行って「休耕田」という立てフダの田んぼを見たなかまもいるだろう。あれがコメを作れなくされた田んぼだ。

百姓の手が余ってくる。収入もへる。

出稼ぎだ。工方だ。アンコだ――不景気だ。

どうなってくと思う？　このニッポンという国。「象徴」という名の老夫婦はスマイルをふりまきにアメリカへ行ってるけどさ。あれは釜ケ崎の何一つへ二五ページにつづく〉

に入れるのもこれまた大変。今のようにマッチ一本でシュッと火がつくなど考えてもみない時だった。

一日に何度となくキャベツを切って、体中・油のにおいと、キャベツの生ぐさいにおいがしみついてなかなかとれず、娘なりし私にとってはなんともなさけなかったけれど、今はいつの日かどんなに小さくて汚なくてもいいから安いお好み焼き屋をやりたいと思う。

一つの火を囲んで焼く人間と焼きあがったのを食べる人間がぐだぐだ話しができることなど、このせちがらい世の中でもう再び望めないような気がするからかもしれないけれど。

××××★★★★★★★★★★★★★★××★

《二七ページからつづく》

だって「愛撫」してやしない。

国勢調査ではあありうヒトやその一族はなんて書くんだろ？

「少しでも仕事をした人は」ってところと「少しも仕事をしなかった人は」ってのとあるけどさ。それから「居住室数」「畳数」なんてのも、こちとらにはてんでワカラナイ。想像もできない。

（シリキレトンボでごめんなさい。長くなると編集長にしかられるので――T）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

《三三ページからつづく》

Aに入り、Cの建物にはDで立ち退いた人が入る。この順序で一番泣かされたのは一番最初に安金でAで立ち退かされた人だという。当り前のことだ。

そういう住民の犠牲のうえで、しかもおれ達とは関係のないやり方でこの街が変わっていく。いや変えられていく。あと一〇年程したら、アンタこの街が住みやすい街になっていると思う？　（なおAとはセンターのこと、Bとは新今宮小中学校とプレハブのこと）